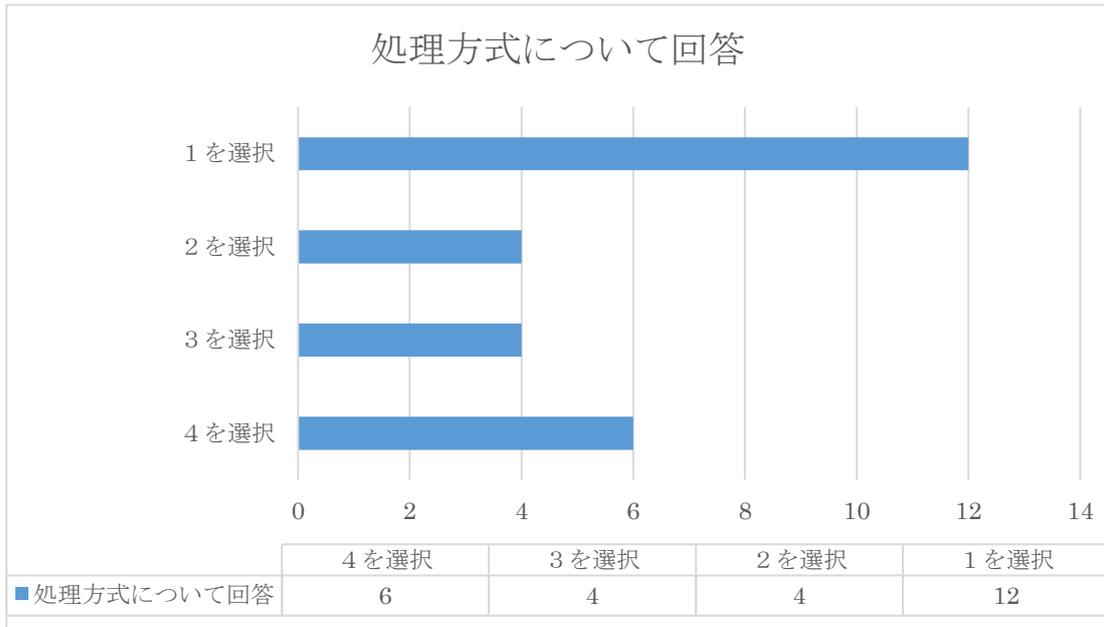
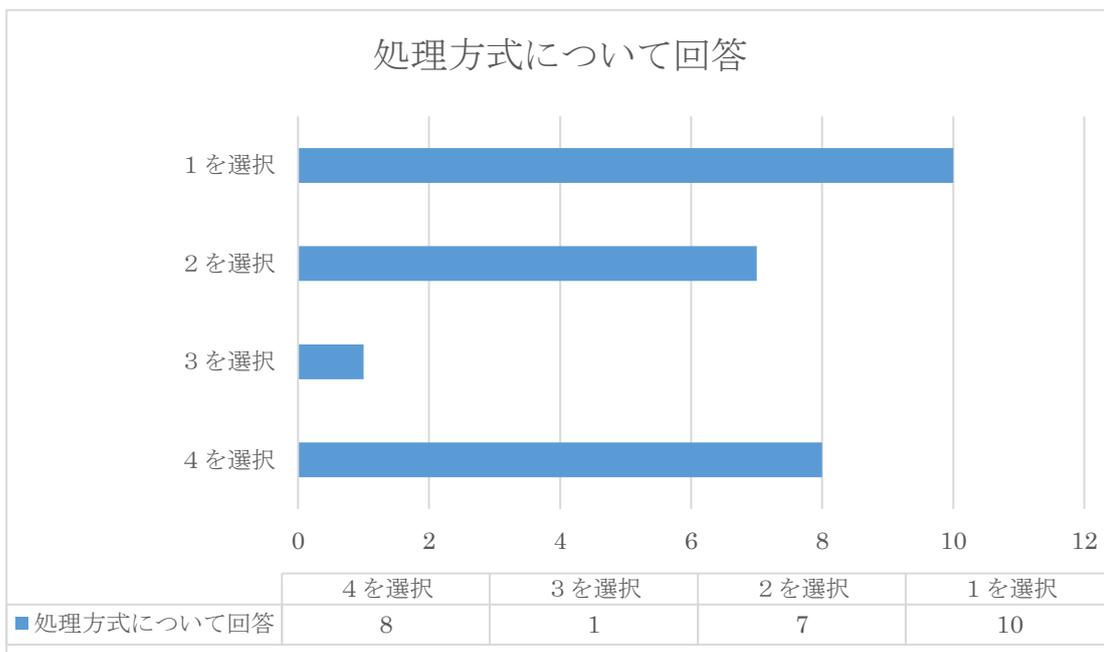


第4回連絡協議会実施 2回目の意向調査結果

1. 新ごみ処理施設における容器包装プラスチックの処理方法についてあなたのお考えに○を付けてください。
- 1：現在のままで良いと思う。(汚れた容器包装プラスチックは焼却)
 2：汚れた容器包装プラスチックは、家庭で汚れを落としてから施設で圧縮・梱包する。
 3：汚れた容器包装プラスチックは、施設で水洗後、圧縮・梱包する。
 4：焼却する。



第2回連絡協議会（先進地視察）実施 1回目の意向調査結果【第3回連絡協議会資料3より抜粋】
 上記と同じ設問でご回答いただいております。



2. なぜ上記を選択されましたか。

【1. 現状のままで良いと思う】

・バイオプラスチックに移行していくとしてもマテリアルリサイクルは必要であり、そのシステムは維持しておくことが望ましい。費用について本来の拡大生産者責任の考え方に従えば事業者が負担するべきものである。焼却により事業者の負担が全くなくなる方向にかじをきることは現地点で望ましくないと考える。

・国やSDGsなどの方向性を鑑み、できるだけ持続可能なごみ処理施設にしていく必要があると考えたから。

・一旦分別しないことにすると再び分別、リサイクルをするという方針転換が難しいから。

・ごみ減量やリサイクルの推進、市町の財政状況、人口、経費見積もりなど現在の値を元にシミュレーションされているが、将来については未知数であり、変化する可能性があるから。(ごみ量をもっと減るかもしれない。CO₂削減効率が高まるかもしれない。)

・平山先生が言われたようにCO₂削減をとるか経費削減(住民負担削減)をとるか非常にむずかしい問題だと思います。国の方策を考えると②、③が妥当だと思います。しかし、③については人件費等の経費がかかり、より一層住民への負担が大きくなります。②は、家庭への負担(手間)が大きくなり、特に現在分別していない4町や高齢者等において令和11年度より稼働した場合、足並みが揃わないのではないかと懸念されます。したがって①の方法が良いと思いますが、彦根市は現状のままですが、他の4町については負担がかかりますので稼働時まで丁寧に説明して了承・協力して頂き一斉にスタートできるように進めなくてはならないと思います。また、後々には少し汚れたものについても家庭で洗って分別するように(②に近づけるように)啓発していくことも大事だと思います。最後に、会議でも出ていましたように住民1人1人がゴミを減らす意識を向上させることが一番大事だと思います。

・正直なところ判断が難しい。CO₂削減は、このことだけでなく世界的にも重要な課題であり、推進すべきであるが、建設費やランニングコストの面では次世代にまで負担を残すことになる。難しい問題ではあるがゆえにそのあたりをもう少し詳しく説明してほしいかと思う。新委員の中には理解できなかったとの話も聞いている。また、市長からは、建設費が高騰した場合には一端考え直すとの発言もあり、それならば、これからの本協議会で何を優先して協議していくのか、アクセス道路の問題も避けて通れない問題です。地元の代表が委員である以上、いろんな意見が出て来るかと思いますが、彦根市の問題とは言え、最初の提案が一言で変更され、そのあたりは連携して提案いただかないとますます時間ばかりが経過していくように感じます。前回の協議会で意見があったとおり、ロードマップを作成願った上でどのように進めるのか明確にしていきたいと考えます。

・現在の方法に慣れており今から変更するのは面倒に感じるため

・上記設問では①は、ある程度の汚れを落とす事を含んでいると判断し、②は、完全な汚れを落とす事を家庭に強いるものと判断した結果です。プラスチックの資源循環を進めていくためにも、容器包装プラスチック類は、極めて我々の身近に利活用されており、積極的に対応しなければならず、企業や個人にその取り組みを発信し、一人ひとりの意識を高める必要があると感じています。

・みなさんがなれているので！

- ・再利用出来る物に対しては家庭で汚れを落として出す。
- ・下水に流せる物は洗浄処理を行い、下水に流したら、つまる恐れの有する物は、そのまま処分する。
- ・完全な洗浄には膨大なコストがかかり、排水が新たな環境負荷となるため、②及び③の効果に見合うか疑問です。また、焼却に限定した施設にすると、分別を再開することが難しく、今後の社会の変化に対応できないため、既存の処理方法を維持しつつ、バイオマス原料の再生等を見据えた拡張性を持たせるべきと考えます。
- ・彦根市の環境基本計画の理念を達成するためには、循環型社会の実現が必要であり、分別収集の意識を啓発し、行動として根付かせるためには、少なくとも汚れていない容器包装プラスチックを分別する現状を続けるべきであると考えます。CO₂削減の視点だけでなく、資源の循環や自然保護など総合的な見方で考えていくと費用はかかるが、処理施設をつくることは市民も納得できる。環境を大切にす未来の彦根市をつくるためにも、その方向性を導いてほしい。
- ・最終的には、各個人の意識の問題になると思いますが、1市4町のゴミ処理に関する方針に従うことになると思いますが、現在の彦根市の方針である汚れた容器包装プラスチックは、焼却を選びました。当然、1市4町の方針がより厳しいものとなるのであれば、それに従います。施設で水洗等することは、経費の面からも問題があると思います。
- ・原則、分別をしっかりする（家族全員で!!）。燃やせば良いとは思えません。いかに資源を無駄なく大切にしていきたいです。将来を見ずえた施設であって欲しい。この先、生ゴミについての話もして欲しいです。燃やすゴミの中の水分が8割余りと知り、驚きです。水を燃やす為のエネルギーの確保より、いかにゴミを減らしていくかに重点をもっていきたいものです。（生ゴミ処理の輪を広げていきたいです。）

【2. 汚れた容器包装プラスチックは、家庭で汚れを落としてから施設で圧縮・梱包する】

- ・今後プラスチックゴミの量が減っていき、各家庭の意識も変わっていくと思われる。ゴミとして出す責任があるので、家庭で汚れを落とし、リサイクルに回る様にすべき。
- ・家庭内で②の様にはしていません。家庭内で容器包装の減少に努めています。
- ・環境に負荷をかけないために、基本的には事業所、家庭に協力をよびかけゴミ減量の取組を行うことが必要。プラごみについてもできるだけ資源化する取組を行うべきで6月に国会を通った「プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律」に準じるべき。

【3. 汚れた容器包装プラスチックは、施設で水洗後、圧縮・梱包する】

- ・費用の問題ではなく、地球環境を守る上で焼却ではなく、リサイクルしていくことが必要と思う。その上で②か③で迷ったが、家庭で汚れを落とすことにしておいても結局、再度、施設でまとめて洗浄する方がトータル的に水の利用やエネルギー利用が少なくて済むのではないかと考え③とした。
- ・新ごみ処理施設を建設するのであれば二酸化炭素排出量だけではなく市民の手間も改善される方が良く思う。設問にある処理方法として、①は現状のままであり、④は環境面で課題があると思われる。②は洗浄を家庭に任せることになりバラツキが生じ、結果として点検や再洗浄の手間が必要になると思われる。したがって③の処理方法が妥当と考えたため。

・現在、汚れた容器包装プラスチックは焼却されていますが、CO₂削減は世界指標です。汚れを落として資源として再利用することをお勧めしますが全戸で家庭で汚れを落とすことは困難だと思います。したがってまして施設で水洗後、圧縮、梱包を希望します。地球環境を守り後世に引き継ぐには私達の使命だと思います。是非ご検討いただきますようお願い申し上げます。

・各家庭での汚れの落とし方が違う為

【4. 焼却する】

・分別回収に伴うコストが高い。

・熱回収の効率はプラスチックを焼却した方がよくなる。

・将来的にはプラスチック製品は減るものと思われる。高齢化が進むことも考えてゴミは簡単に出せる方が良く思う。

・新ごみ処理施設開始の2029年頃にはプラスチック製品の大半が紙製やバイオプラスチックに転換されている事が予想されると思うので。

・施設整備、運営費を削減した方が良い。

・会議の中で、資料に「近年、容器包装プラの25%程度が不適切として焼却等されている。」と書かれてあったので、その実態についてお聞きしましたが5号委員からは発言がありませんでした。1号委員からは、25%は重量の割合であり、軽いプラごみの中にプラ以外の重たいゴミが混じっているため割合が高くなっていると説明されました。今回の資料としては分かりにくく、数字の出し方が不適切であったと思います。そこで、市清掃センターHP「容器包装プラスチックについて」を確認すると、「資源化施設では、集められた容器包装プラスチックをすべて手作業で選別しています。」とありました。行政では、ごみ分別への啓発は何十年も前から行ってこられましたが、未だ十分とは言えない実態が見えてきます。1市4町の住民は、今後も後期高齢者が増えていく中、認知症患者も増加していくことは容易に推測できます。当自治会の会員の中にも、ごみの出し方が分からない一人住まいの高齢者がおられ、毎週、自治会でフォローをしている現状です。また、市民の転入転出の移動も多く、人口減少を抑える取り組みは自治体間競争にもなっています。市長の構想である30万都市へ向けて労働力人口の増加を目指して人口増加となればなおさらで、外国人の増加も見込まれます。清掃センターの現状から、今後も容器包装プラスチックの選別作業を続けていくとすれば人件費が膨らんでいくことも予測され、事業ごとの人件費は市民からは見えにくい費用でもあり、市民にとっても職員にとっても好ましくないと思います。どれだけ啓発に力を入れても、自治体ごとにごみ処理の方法が違うのだから終わりはありません。よって、住民の協力を前提とした再資源化には限界があり、「4：焼却にする」とします。ごみは毎日出るものであり、すべての住民に関わる事柄なので、ゴミ出し方法は単純明快にする必要があると考えます。たとえ環境負荷に直結するごみ焼却であったとしても、ごみ処理は今までもこれからも市町村固有の事務であり、高機能焼却炉を設置して市民生活におけるごみ分別の煩わしさを解消し、少しでも人口定着・増加につなげ、CO₂の削減は他の分野で行うと割り切った方が良く思います。

・家庭で汚れを落とす工程を設けることは、汚れを落とすレベルが一定でないと考えられるので、③の処理が必要になると考えられる。

・容器包装プラスチックを一種の資源として扱っているが、本来なら材料別に分類して資源化するべきではないでしょうか。しかし、現状の設備でここまで実現するにはコストが係りすぎると思う。また、災害ゴミの受入も想定されていることを考慮すると分別レベルはまちまちであることから④で行うのがベターと考えます。

・容器包装プラスチックを資源化するための施設建設等のイニシャルコストおよび資源化ランニングコストについて、彦根市の現状（分別しても一定の異物の混入、容器包装プラスチック量の減少）および今後将来における代替プラスチックの増加などを考慮するとコスト負担が大きい。

・環境の観点からは、資源循環の促進を図ることが重要であることは理解するが、本市の『市内容器包装プラスチック処理の推移』から直近5か年を見ても、資源化されている量は頭打ちとなっており、更に、これまで容器包装プラを焼却されている周辺3町の分別方法を変更した場合に、分別の周知をしてもどこまで減少できるか疑問が残る。今後の少子高齢化による財政収入の確保が大きな課題となることから、概算事業費比較で算出されているように、容器包装プラスチックを焼却し熱回収をする方が、市民や町民の負担減に繋がると考え、焼却を選択した。